

会報誌 「ドローン Magazine」《特別号》



ワカサギの釣り方お勉強会です「氷上公魚釣り」



<<ワカサギ釣り>> ってどんな釣り？

冬が訪れるとTVニュースでも報道されるワカサギ釣り、氷結した氷上で、穴を開けて釣りをしたり、テントを張っているワカサギ釣りってハードルが高いのか、低いのか、色んな釣り方を見て、最小限の準備で参加しましょう。

- ・釣り集会：<http://www.hds.comdrone.net/04doronemagazine/doronemagazine.html>
- ・栈橋等の上から釣る
- ・暖かいドーム船に乗って釣る
- ・氷結の湖上から釣る（寒ければテントに暖房もあり） 🖱️ 今回はこれ
- ・大人から子供まで

ワカサギ釣りは短い竿の仕掛けにエサ（紅サンなど）を付けて誘っていただく、群れが大きければ、一度に2尾、3尾と掛かり、だれでも数釣りが楽しめる釣りです。

<<ワカサギ>> ってどんな魚？

キュウリウオ目キュウリウオ科の魚で、漢字では「公魚」と書き、春に産卵して大半は一年で生涯を終えるが2年目も生き続けるワカサギもいる。

大きさは10～15cm位まで成長し、**食べても美味しい人気の魚**で食味としても一番臭みがなく美味しいのが冬で、いろいろな調理方法で食べられている。釣りの旬も冬となります。



<<ワカサギの生態と習性>>

ワカサギは海へ降って成長し、秋に河川をさかのぼって産卵するものと、河川と湖だけで生活する陸封型がいる。群れで動物プランクトンなどを捕食しながら回遊する生態を持っており習性として、日中は深場などを回遊し、暗いうちに浅場で捕食活動することが多く、釣りの時間帯となる日中は深場でどのような水深を回遊しているかを探ることが釣果に左右される。

<<ワカサギが釣れる場所>>

冷水性の魚で、太平洋側では霞ヶ浦以北、日本海側では島根県以北や北海道など寒い地域に多く生息していましたが、現在は全国各地の湖沼に分布しています。

釣り場としては、関東では山中湖や高滝湖、関西では津風呂湖や東条湖といった自然湖やダ

ム湖が有名スポットで、東北の桧原湖や群馬県の赤城大沼などは、特に北海道は湖面が氷結するため氷上の穴釣りが楽しめる。

<<これだけは揃えよう！>> ワカサギ釣りに必要な道具と装備

まず、最初は必要最低限の道具から準備し、慣れてきたら、気軽に数釣りが楽しめる超便利なグッズを見てみましょう。

・ワカサギ専用のロッドとリール

ワカサギ釣りで使用するロッドとリールで、ロッドは穂先だけのものと、リールは電動で自動に巻き上げできるものが主流となってきている。繊細なワカサギのアタリを取るために穂先は柔らかく粘りのある20~30cmくらいのものが多く、長さや柔らかさなどが違うので経験も合わせて好みのものを選ぼう。

・ワカサギ用のライン、仕掛け、オモリ

ワカサギで使うラインは繊細なアタリを取るため細いものが主流となっている。

使用するラインは、

感度に優れる PE ライン、

扱いやすいナイロンライン、

感度と張りがあるフロロカーボンラインの3種類

それぞれ0.2号前後の太さのものがよく使われる。

そしてワカサギ用の仕掛けは、ハリが5~6本付いた胴付き仕掛けが一般的

その仕掛けの一番下に0.5~3号くらいのオモリを取り付ける

(オモリは釣り場の水深によってサイズを使い分けていく)

ここまでがワカサギ釣りで必要最低限の装備となります

<<あると便利>> なグッズ&安全装備

ワカサギ釣りはいかに手返し良く数釣りができるかが、釣果の分かれ目となる。

・そのため**電動リール**といった進化したワカサギ装備が最近の主流

・ワカサギ**水槽**&ワンタッチの**ワカサギ外し**

※これを揃えておけば数釣りのための速度が大幅にアップするらしい、速度重視なら

<<その他のアイテム>> あれば便利

・他にも深場を回遊するワカサギのタナが分かる**ハンディ魚探**

・仕掛けのセッティング時の絡み防止用の**ワカサギアンテナ**

・タナの水深が素早く分かる**タナカウンター**

・電動リールを置ける**マルチテーブル**

・釣れたワカサギを新鮮に保つための**クーラー**

・ワカサギ釣りは寒さとの戦い、**防寒用品**、テントなど寒さを凌ぐ為のアイテムは必須

・そして最後にいざという時のための**ライフジャケット**



<<ワカサギを釣ってみよう！>> さあ釣ろう！

専用の竿（ロッド）、リール、仕掛けを使えばだれでも簡単にワカサギ釣りにチャレンジ可能、でも、数をより釣るにはコツがある。その基本的な釣り方と、ちょっとした数釣りの秘訣を紹介していきます。

- ・仕掛けをタナまで落とし込む
- ・底から巻き上げて釣れるタナを合わせる

※ドーム船などは、「底から 10m」とか「底からリールを 10 回巻いて」と教えてくれる

※栈橋やボート釣りで解らない場合ハンディ魚探、カウンター付リールで水深を合わせる

※便利グッズがなくても、底までオモリを落としてから巻き上げタナを探る

- ・タナから軽くロッドを上下させながら誘う

ワカサギの誘い方は、オモリが底に着いてから 10cm ほど巻き上げ、ロッドを上下させながら誘う、これを 3 回くらい繰り返してエサが漂うようにするのが基本

※釣れる誘い方はその日によって変わるので、基本の 3 回の誘い以外にもいろいろと試し、自分なりのパターンをつかもう

- ・アタリは繊細！穂先が動いたらアワセよう

アタリの取り方はロッドの穂先の動きで判別する。ロッドを止めていると

ピクピクと動いたり

グッと入り込んだり

逆に上へ喰いあげる パターンもある

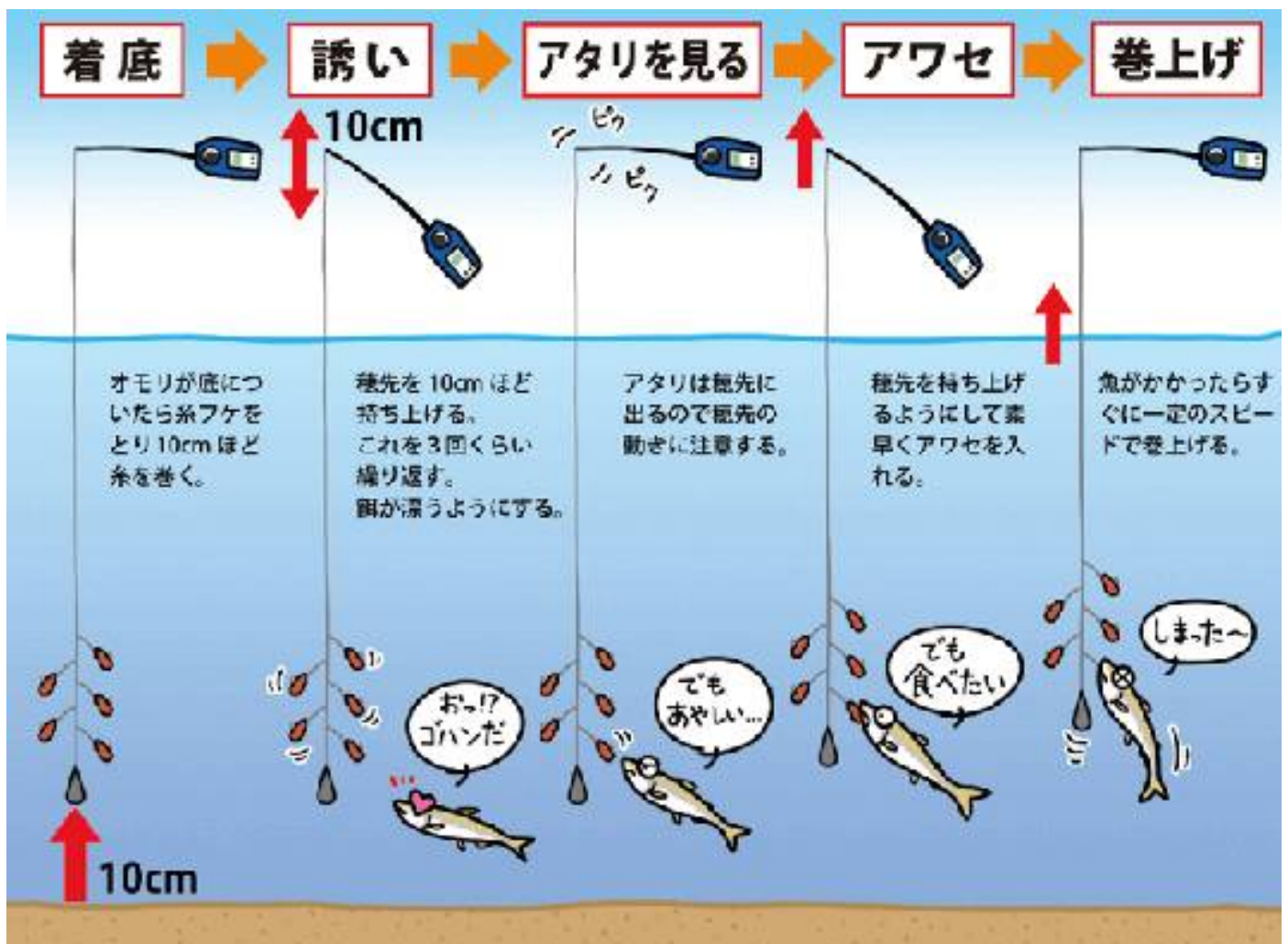
また、ワカサギの群れが多かったり活性が高い時は、仕掛けを落とし込んでいる最中に

ロッドが入り込んだり

逆に軽くなる場合もある

何かしらの違和感があれば、ロッドを軽く上げてアワセていこう

※口が弱い魚なのでアワセは軽くてする、また、すぐにハリを吐き出してしまうので素早くアワセを入れていこう



<<巻き上げすぎには要注意>> 釣りの際の注意事項

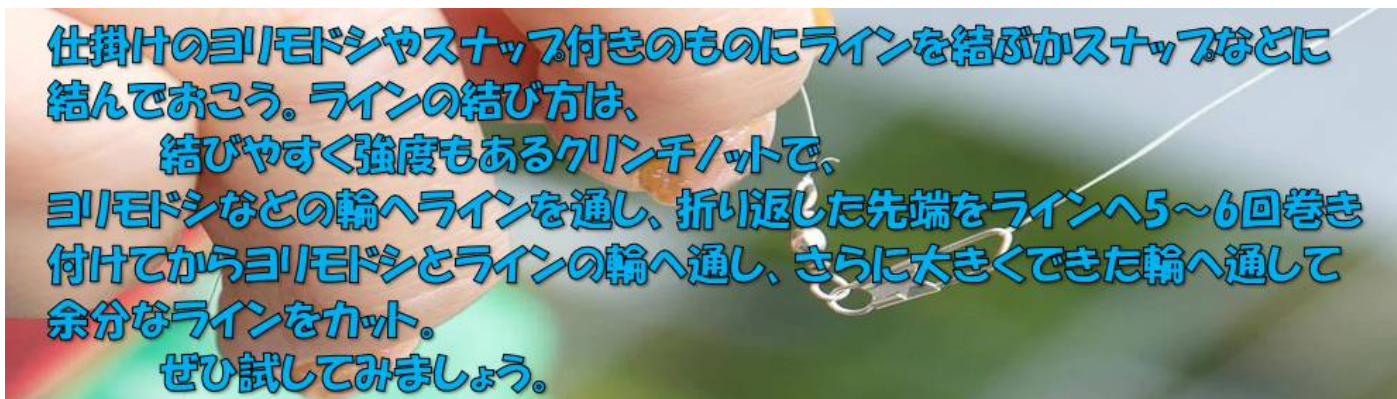
ワカサギが掛かったら電動リールで一定のスピードで巻き上げていこう。この巻き上げが一定速度ではない場合や、止めてしまうとバラシの原因となりやすい。また、巻き上げすぎると仕掛けがロッドのガイドへ入り込んだりしてしまい、トラブルの原因となってしまうので注意しよう。

その他の注意点として、

釣り人が多い場合などは場所の取り過ぎや、

仕掛けのおまつり（糸が絡むこと）の際にはお互いに謝意を示す

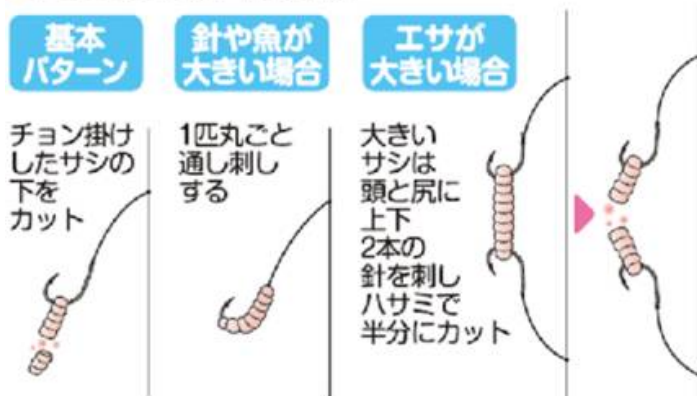
<<ラインの結び方>>



<<エサの付け方>>

使用する一般的なエサはサシと呼ばれるものです、白い色をした白サシと赤い色の紅サシがあり、これを仕掛けのハリ1本ずつに付けていく。基本は、ハリにチョンと掛けたサシの下をハサミでカットする方法や、ハリや魚が大きい場合は一匹ごと通すように刺していく方法ですが、エサが大きい場合は、下図のように2本のハリにサシを上下に取り付け、真ん中からハサミでカットしていく等の方法もあります。

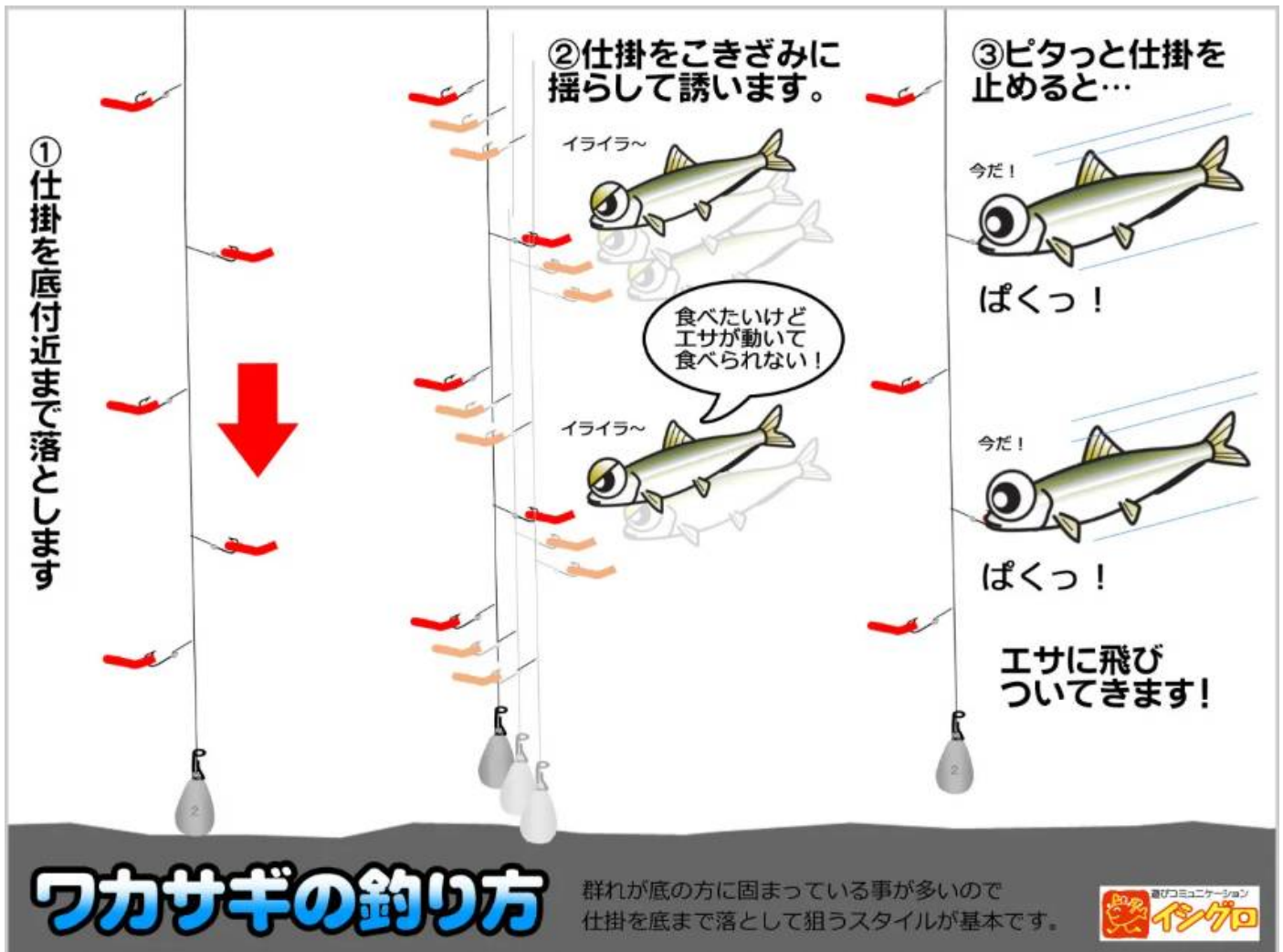
●紅サシの付け方（基本編）



<<最後に>>

- 🐟 ワカサギ釣りは他の釣りにはない楽しさもある
- 🐟 季節は秋から冬がメイン
- 🐟 場所は氷上以外に、秋の湖畔もある
- 🐟 釣る時は遊漁の深さを確認することが重要
- 🐟 エサは生エサを使おう

🍷 ワカサギは臭みがなく美味しい 🍷



この資料は各種の情報から拾い出しをさせて頂きました。

北海道ドローン研究会

釣り部 . . .

札幌市西区西野4条10丁目12番12号
 北海道ドローン研究会事務局 ドローン Magazine 編集部
 JR8YQH 事務局 (JA5KTF/8)
 Clubhouse CLUB:「北海道ドローン研究会」
com@forest.ocn.ne.jp
<http://www.hds.comdrone.net/>